

地中海紀行(5) チビタベッキアでシップウォッチング

2023-6-30 池田良穂

フランスのビレフランシェに続く寄港地は、イタリアのチビタベッキアでした。ローマに最も近い港で、ローマの外港とも呼ばれていますが、ローマまでは高速道路で 3 時間余りのドライブが必要です。欧州での現代クルーズの導入当初からクルーズ客船誘致には積極的で、ローマ時代に建設されたという防波堤を延長して、その内側に、大型クルーズ客船 5~6 隻が停泊できる長いクルーズ埠頭を建設しました。また、コンテナ埠頭もクルーズ客船兼用として使われており、テント型のクルーズターミナルが建設されています。

早朝、入港した「アンセム・オブ・ザ・シーズ」は、防波堤側のクルーズ埠頭の、一番港口寄りの岸壁に着岸しました。この日は「アンセム」も入れて 5 隻のクルーズ客船が入港しました。そのすべてが、港へのアプローチから、港内の航行、そして着岸まで、船上から見ることができました。

また、地中海航路のカーフェリーの入出港も見ることができました。

下船して町まで徒歩で 30 分ほどでした。アクセスバスも用意されていましたが、片道 6 ユーロと高く、しかも現金払いのみだったためと、無料の港内巡回バスはなかなか来ず、しかも長蛇の列になっていたためです。しかし、徒歩で移動したので、停泊する 1 隻ずつをゆっくりと眺めることができました。

港の見える丘の上のレストランで、船を眺めながらの昼食を楽しみました。近くには支倉常長の銅像もたっています。

ローマまで行ったツアーバス(ツアー時間は 10 時間半!!)がなかなか帰らず、出港は 1 時間以上遅れて、ほとんどのクルーズ客船が「アンセム」の横を通って出港していきました。コスタと MSC については、同港が発着となっていたようで、町に出る途中で、スーツケースを引きずりながら船に向かう人々にたくさん出会いました。



チビタベッキア港への入港です。長い岸壁の内側にクルーズ客船用の岸壁が整備されています。



港内には自動車運搬船、RORO 貨物船、コンテナ船、カーフェリーなどが停泊していました。



港外を走る「セリナ」(上)と港内を進む同船(下)。



続いて「MSC デイビナ」が入港してきました。



「コスタ・スメラルダ」の入港です。



最後にロイヤル・カリビアン の 7 万総トン級の「エンチャントメント・オブ・ザ・シーズ」が入港して、港内で反転して出船状態でコンテナ埠頭に着岸しました。



クルーズ客船岸壁に並ぶクルーズ客船と、徒歩で町に向かう「アンセム」の乗客。



チビタベッキアの町から眺めた、港に停泊する 5 隻のクルーズ客船。チビタベッキア港は、クルーズの発着港および寄港港として多くのクルーズ客船の誘致に成功しています。



出港するティレニア・ラインのカーフェリー「シャーデン」。サルジニア島とを結びます。



入港するグリマルディ・ラインのクルーズフェリー「クルーズ・ボナリア」です。



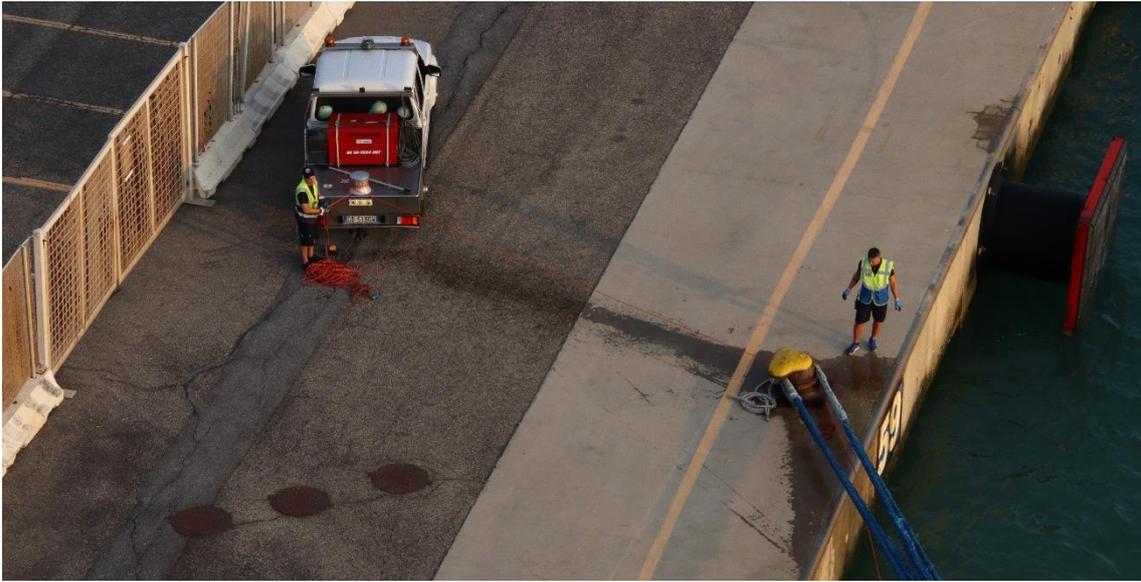
入港するティレニア・ラインの「ビシア」です。



出港する「コスタ・スメラルダ」(左)と、出港準備中で係船索を一部外している「MSC デイビナ」(右)です。



出港する「コスタ・スメラルダ」の姿を「アンセム」の客室のソラリウムのウィングからとれました。



係船索を係船柱にかけるために引き上げるのは一苦勞。車に積んだキャプスタンで引き揚げ作業を行い、作業員数を半分に減らしていました。